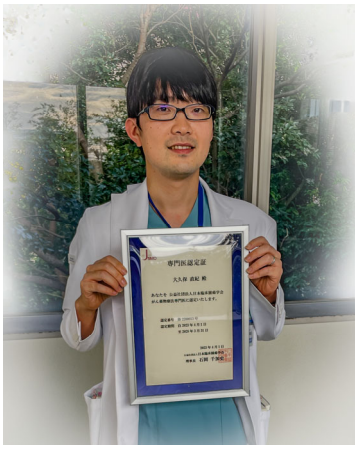
2015 年卒の大久保直紀です。



このたび 2022 年度の専門医試験に合格し、2023 年度からがん薬物療法専門医として認定されました。

がん薬物療法専門医試験は、複数領域(造血器、呼吸器、消化管、乳房症例をそれぞれ 3 例以上含む)のがん 30 症例の病歴要約に加え、臨床腫瘍学会での発表やがんに関する論文が要求されます。その書類審査を通過したのち、全てのがん種が出題範囲であり幅広い知識を問われる筆記試験、さらに病歴要約の症例に関して行われる口頭試問をクリアしなければならず、難易度の高い試験だと言えます。そのためがん薬物療法専門医は 2023 年 4 月現在、全国で 1689 人しかおらず、希少性の高い資格です。2013 年までは専門医が 1 人もいない県があったくらいです。難易度の高さに見合い価値も高い資格と考えられます。腫瘍内科医として箔がつくのはもちろんですが、臨床腫瘍学会の連携施設認定要件にはがん薬物療法専門医または指導医が 1 名以上在籍していることが条件であり、資格を持っていると病院から重宝される人材になることができます。

当院は臨床腫瘍学会の認定研修施設ですので、私は当科での症例に加え、血液内科、呼吸器内科、乳腺外科をローテートさせていただくことで、当院での症例で全ての病歴要約を作成することができました。

卒業年次から考えると幸いにも最短で取得できたことになります。病歴要約の査読基準には、なるべく多くのがん種を含むことや高リスク症例を含むことが加点となる旨が記載されています。私のような若輩者が取得できたのは当科で肉腫や神経内分泌がん、原発不明がんなど希少がんを含む多くのがん種や難症例を経験できたことにより、病歴要約を高評価していただけたことが大きな要因だと思います。

このように当科はがん薬物療法専門医を取得するにはとても良い環境だと考えます。私を含め 2 名の専門医、1 名の指導医がおり、指導体制も整っております。がん薬物療法専門医に興味がある先生方にはぜひ仲間になっていただき、一緒に働き専門医取得を目指していただければと思います。

ローテートを快く受け入れてくださった血液内科、呼吸器内科、乳腺外科の先生方、そして日頃の診療や学会発表などご指導いただいている当科の上級医にもこの場をお借りして御礼申し上げます。

専門医の肩書に恥じないよう、気を引き締めてこれからも研鑽を積んで精進して参ります。